

高校のクラスと私

私の豊かさ

P グループ 賈卓嫻(カタクケン)

1. クラスの308班の紹介

高校時代は私にとって、重要な思い出になった。高校のクラスは308班と呼んで、大事な存在である。このクラスには、私の親友がいた。しかも、クラスメートとすごく楽しい高校生活を送った。

今、308班のクラスメートに感謝の気持ちを持っている。高校時代は、中国人から見れば、非常に重要な時期とよく言われる。私もそう思う。数多くのクラスメートは優しくて熱心であった。何か困ったら、みんなでお互いに助け合った。私のクラスは集団意識が強くて、力を合わせることができた。

例を挙げると、北京オリンピックの前に、学校で黒板新聞試合が行われた。各クラスが、教室にある黒板を使ってできるだけ美しい新聞を書くという試合である。この試合のために、私のクラスは黒板新聞グループをつくった。私はそのグループのメンバーになった。黒板新聞グループには5人いて、みんなで手分けをして、仕事をした。5人でよく一緒に討論し、資料を探し、計画を立てた。さらに、他のクラスメートも協力して、一番きれいな黒板新聞を書いた。結果、私のクラスが一番であった。みんな喜んで。これは美しい思い出になった。

高校生にとって、センター試験に参加するのは一番大事なことである。中国のセンター試験は「高考」と言う。高考は非常に厳しいので、みんなに重視される。私は、高考の前に、プレッシャーが重過ぎて苦しいときがあった。私は親友から激励の言葉をよくもらった。「疲れた、疲れた。もう駄目だ!」と言ったとき、親友は「頑張れ! 大学に入らないか。大学に合格できなければ、家族や先生に失望されるよ!」とよく言った。それを聞いたら、すぐ元気になって、一生懸命勉強することができた。

私のクラスでは様々な出来事があった。これらは私にとって、豊かな人生の経験になった。したがって、308班は大切なコミュニティという存在であるということができる。

□□取材散歩に行ってみて

1 1月7日、私のグループ4人は土崎グローリアチャペルを参観した。

中国にもチャペルはあるが、私はキリスト教徒ではないので、これが私にとって、初めて行ったチャペルである。土崎グローリアチャペルは非常に立派で、落ち着いた色あいの建物である。チャペルは設備が充実していて、キッチンや図書室や休憩室など様々あった。毎週日曜日に、教徒は聖書を学び、ワーシップソングや賛美歌を歌い、神を讃え、祈り、礼拝をする。教会では、イースター、クリスマスのお祝い、コンサートなど多くのイベントがあり、様々な年齢層の教徒も出し物を上演する。写真を見て、教徒たちは楽しそうであった。

苦しいとき、悲しいとき、慰めが受けられる。キリスト教において、みんなが幸せに生活できるように頑張っているという気持ちが感じられた。

□□話し合い相手について

クラスの308班には、私の親友がいた。何でも話す私たちは、ベストフレンドになった。

親友は鮑と言うが、私はいつも鮑ちゃんを「饅頭ちゃん」を呼んでいた。「鮑」と「包」の発音は同じで、中国語で「包」は「饅頭」の意味を表すからである。鮑ちゃんはきれいで、とても優しい女の子である。彼女はいつも相手の立場から、相手のことを考えている。

たとえば、私は冬が苦手である。だから、冬になると、鮑ちゃんは私のことをすごく心配して、様々な防寒の方法を教えてくれている。蘭州でのある日、突然、速達でマフラーが送られてきた。最初はどのようにしてマフラーが送られてきたのか分からなかったが、鮑ちゃんが、蘭州がふるさとより寒いのでマフラーを送ってくれたことが後で分かった。一週間かけて自分でマフラーを編んで送ってくれたそう。それを知ったとき、嬉しくて感動した。

鮑ちゃんは私の一生の友達である。彼女の優しさを絶対に忘れない。

□□話し合い結果

最近、WeChatによって、鮑さんにインタビューした。私は、最初は別のクラスであったが、鮑さんははじめから308班にいた。学生だから、毎日勉強するしかなかったが、第一志望の大学に入るために、一生懸命勉強していた。もし、中国のセンター試験を一つの戦争に例えるなら、クラスメートたちは敵ではなく、戦友である。生活上では、ストレスのない単純な生活を送った。教室、食堂、寮が主な生活場所であった。あのときクラス担当の先生は、よく私たちを厳しく叱っていたのでみんなに嫌われていたが、今では懐かしい良い思い出である。308班がうまくやっていけたのは担任先生のおかげである。鮑さんはそう言った。

高校を卒業した後、みんなはそれぞれの地方の大学に入り、専門分野や生活環境がバラバラになったため、共通の話題が少なくなった。また、大学では小型の社会のように色々なことを合わせて、簡単なことが複雑になるので、大学では大変な生活を送らなければならない。鮑さんは以前のような普通の生活をし、前と同じような友情を持ち続けていきたいと言った。鮑さんは毎年、同窓会を期待している。クラスメートと一緒に喋る時間は幸せな時間だからだ。それが今の鮑さんにとってのクラスの存在意義である。時々、彼女は308班のことを偲ぶ。あのとき、楽しい生活を送ることができたことは、一番幸せなことだったと考える。

□□クラス308班と私

308班は言った通り、私の人生の経験では大事な存在である。このクラスでの3年間、様々なことを教えてくれた。人生にはめぐり会いや喜びがあるが、別れや世の中の悲しみもある。この3年間、一部分のクラスメートは勉強に弱くて、大学に入りたくないの、退学した。学校をやめた後、彼らは生計を立てたために、毎日忙しかったが、嬉しかった。これは一つの成功だと考えた。前に人生の成功が有名な大学に入ることに比べ、成功の道は一つだけでなく、色々な道路があると考えた。最も重要な

のは、有意義で楽しい生活を送らなければならない。私と鮑さんはどうしても大学に入りたいので、一緒に勉強し頑張った。今、私たちの二人は大学生をしている。

また、このクラスといえば、鮑さん以外に、班長さんが深い印象を与えたと思う。班長さんはいつもまじめで、怖そうな顔であったが、意外に親切で優しく、よく笑う信頼できる人であった。班長さんは成績も優秀であった。班長さんといるとき、308班での生活を思い出し、励ましの言葉をもらい、よくやる気満々で勉強に臨み、自分の目標に向かって努力した。

今、308班は美しい思い出になった。偶には以前のことを思い出し、元気になり、幸せな顔をしている。記憶に存在している308班は、私の特別な豊かさである。

6. 「コミュニティ」「コミュニケーション」とは何か

この授業によって、今、「コミュニティ」と「コミュニケーション」に対して、新しくもっと深い考えが生まれた。「コミュニティ」は私にとって、みんな一緒にいるところで、生活や仕事や勉強などからお互いに濃い感情が生まれ、みんなの絆がだんだん深くなり、ある程度共同体という意識があるということである。「コミュニケーション」は「コミュニティ」から生まれると思う。みんなが一緒にいて、必ず言語や動作によって交流をするのは「コミュニケーション」と呼んでいる。したがって、今、周りに授業のグループやクラスメートや留学生間やアルバイトのところなどは私の「コミュニティ」である。

7. クラスについての感想

このクラスによって、新しい友達を知り合えた。最初はグループを作って、四人は一緒に授業で討論し、それぞれの所属するコミュニティに散歩取材し、夕飯を食べ、様々な話題を喋った。本当に美しい思い出である。

また、先生に基づいて、レポートを書き、コミュニティとコミュニケーションに関する考えがよく分かれた。授業にはいろいろな形式によって、散歩取材、ポスター、自分のコミュニティに関するシェア、新しいものを見せてくれて本当に嬉しかった。なお、ほかの国から学生と付き合っって面白いことと知らなかった習慣が聞いていいと思う。

最後は、本当の感想を話させていただく。それは、この授業が好きで良いと思う。